

- 1 謹賀新年まなこきれいな蛸つかみ
- 2 空がこころの妻の口ぶえ花の昼
- 3 指先のきれいな自己分析や春
- 4 普通科の子と暖かき円のなか
- 5 選ばれてあり絵のなかの桃の花
- 6 顔がおきざり春光の新聞紙
- 7 想像をはんぶんあげるチューリップ
- 8 窓はどこだ株式市場に春の鹿
- 9 犀が見つめて遠足の鈴が鳴る
- 10 ねじまき海岸めざめのあさき蛤よ
- 11 卒業や亀を裏がえせば白し
- 12 風船のうちがわに江戸どしやぶりの
- 13 春愁やかなたの白いフラフープ
- 14 蒲公英のまわりの濡れている市場
- 15 さえずりやちいさく晴れし壺の空
- 16 芽吹く江ノ島天国のようなパーマ
- 17 忠実な嫁の嫁菜の読めない愛
- 18 無償船団うららか不等号の歌
- 19 接吻のまま導かれ蝌蚪の国
- 20 翡翠の記録しんじつ詩のながさ
- 21 揺れている硝子の青田道あなた
- 22 隠さず申すうすばかげろう酒たばこ
- 23 鷺草しずか低血圧の人としばし
- 24 新緑や全国犀の角協会
- 25 宰相將軍銅貨のなかに百合沈む
- 26 帆のような素肌ラジオのように滝
- 27 連想ゲームのおわりは晴れて鯨かな
- 28 戦争やはたらく蛇は笛のよう
- 29 あほうどり祭りのうごく時間見る
- 30 中空にひかる午睡の不思議な樹
- 31 餅肌や見えない滝で充ちている
- 32 式服の食事ゆうだちすぐそこに
- 33 滝壺やなんども玉になる少年
- 34 主食は火あたらしき蚕豆の星
- 35 家族舟かわせみの正面にいる
- 36 出目金の世界は割れて花うさぎ
- 37 風鈴や風のほうより次女来たる
- 38 座椅子よりきらりとすべる薄暑かな
- 39 父くじら子くじらクライニングシート
- 40 音楽噴水いま偶然のこどもたち
- 41 蜜豆や夜の気配の客かえる
- 42 釣堀のちいさな橋を渡りけり
- 43 爪切りにぐつとかたちのある薄暑
- 44 死も選べるだがランプを切る裸
- 45 虹が波さらえばこの子せかいの樹
- 46 剣玉少年におい残さず夕立へ
- 47 出航や脳に白夜の大樹あり
- 48 端居してかがやく智恵の杭になる
- 49 視野に白鷺くちびるがふとあまい
- 50 愛や枇杷ふたつ二等辺三角形

- 75 露草の森大叔父についてゆく
- 74 諸氏半身紅葉もうはんぶんは悪
- 73 閻魔蟋蟀活字あかるく連なれり
- 72 動く為替この道を今日も牝鹿
- 71 花野より従兄はがれてゆきにけり
- 70 満月に眼のあり小学校の石
- 69 あまぐもや蜜豆ひとつ置き空想
- 68 七夕のしずかに燃える絵本あり
- 67 世知茫洋くちぶえ吹けば稲光
- 66 騎馬ひとつ感じる蕎麦の花のなか
- 65 グリコ横取り僕の横ふかい霧
- 64 泉たずねて空港に樹の鬨
- 63 妻は大事なひと豆飯専門店
- 62 庭たのし末路ゆたかに扇風機
- 61 蜜豆や見つめるひとびとの祝辞
- 60 緑はげます空間のサボタージュ
- 59 溜池に降るこまどりの寓話かな
- 58 筆談の釣堀あかるくなってくる
- 57 空港によりそう飛魚のひかり
- 56 蚕豆の神話しずかなそらもよう
- 55 白いたまねぎ象徴になる途中
- 54 偶然の盗まれるまで螢かな
- 53 紫陽花や分母のように兄ねむる
- 52 自動冷房青いさなぎになつてゐる
- 51 口笛のきれいな薔薇の国あるく
- 76 水の議論うつろいのおすみとんぼ
- 77 息吹く柿意に添う姉の嫁ぎさき
- 78 健康や台風圏に建て増す家
- 79 白菜が祖母抱きしめて透きとおる
- 80 かまいたち京都にまぼろしを殖やす
- 81 冬晴れやのぼればあつけなき皇居
- 82 牡丹焚く父子のすさまじき没頭
- 83 寒椿空気のおもてがわに咲く
- 84 深雪晴れ鳥の登記を手伝うよ
- 85 契約や鮫に孤高の文字ならぶ
- 86 鏡中のこがらし妻のなかを雲
- 87 海馬（とど）眠る傍流の神様がいる
- 88 欠札の都市にひかりの冬きたる
- 89 見えているものみな鏡なる鯨
- 90 ラグビーや静かに結ぶ子供たち
- 91 風のなき四章を読み終えし雪
- 92 ふくろうに架空の金貨流通す
- 93 メロデイやぼんやり島のさつまいも
- 94 風花の奥のしずかな披露宴
- 95 着ぶくれて遊具にひっかかっている
- 96 陶器燦燦朝日よりむささび来る
- 97 出来事のような教師や冬の晴れ
- 98 クラスメイトは狐火よ信じる鈴
- 99 白鳥定食いつまでも聲かがやくよ
- 100 鼻や息のおわりのきれいな詩